

## 非使役義を表す結果補語について

秋 山 淳

### 要旨

石村(2000,2008)では、前項動詞(V)+後項動詞(R)の結果補語を持つ他動詞文は使役義を持つことを指摘している：(a)武松打死了老虎。ところが、そのほかに、使役義を持たないVR他動詞文も存在する：(b)这本书已经看完了。そこで、VR他動詞文が使役義を持つものと非使役義を持つものの両方が存在する原因について、先行研究を再整理し、中国語教育における補助的な役割を目指すものである。

### 1. はじめに

前項動詞(V)が原因、後項動詞(または形容詞)(R)が結果に解釈される結果補語を持つ他動詞文は、中国語の教学において、難しい文法事項の一つといえる：1)

- (1) 武松打死了老虎。「武松は虎を殴り殺した」
- (2) 胖子坐塌了椅子。「太っちょが座ってイスを壊した」
- (3) 小王跳塌了房子。「王さんは跳びはねて部屋を壊した」

たとえば、(1)の前項動詞“打”は“武松”が“老虎”を殴ること、後項動詞“死”はその結果、“老虎”が死ぬことを表す。(2)と(3)も同様に、前項動詞が主語の目的語に対する行為を表し、後項動詞は目的語の状態変化を表す。このことから、これらのVR他動詞文は使役義を備えていると考えることができる(石村 2000, 2008)。

けれども、使役義を持たないVR他動詞文も存在している：2)

- (4) 这本书已经看完了。「この本はもう読み終えた」
- (5) 老师说的话你听懂了吗? 「先生の話、(聴いて)理解できましたか?」
- (6) 我还没学会滑雪呢。「私はまだスキーをマスターしていない」

(4)～(6)は(1)～(3)と異なり、主語の行為(前項動詞(V))が、目的語(または主題)の状態変化(後項動詞(R))を表しているのではない。従って、(4)～(6)のVR他動詞文は使役義を備えていると考えることはできない。

では、なぜ使役義を備えるVR他動詞文と使役義を備えていないVR他動詞文の両方が存在するのか、本稿では、そのような問題意識を手がかりに、VR他動詞文はそもそも何を表すモノなのかを考察するものである。

### 2. 使役義を持たないVR他動詞文

#### 2.1. 後項動詞が前項動詞の完了・達成を表すタイプ<sup>3)</sup>

- (7) 我们学到第十课了。「私たちは第10課まで学んだ」

(8) 因为他从每个人身上，都看到了浓浓的杀气。「彼は一人一人の身体から強い殺気を見て取ったからである」

(9) 我吃完饭了。「私はご飯を食べ終えた」

(10) 这时父亲问他：“洗完了？”「その時、父親は彼に尋ねた『洗い終わったか?』」

(11) 刚才我看见他了。「今し方彼を見かけた」

(12) 她忽然听见了他们的声音。「彼女は突然彼らの声を耳にした」

(7)(8)はV+“到”の形式である。“到”は「到達する」「達する」という意味を持つ：

(13) 火车到站了。「汽車が駅に着いた」4)

(14) 从北京坐两个小时的飞机就到上海。「北京から2時間飛行機に乗ると上海に着く」

V+“到”は(13)(14)のような「到達する」「達する」という意味から拡張して、「動作の結果や目的の達成」を表すことができるようになる。一般に、中国語の動作動詞(activity)は終了点を持たないために、ここでは、“学到”“看到”と表現することで、到達点を表すことになる。

(9)(10)はV+“完”の形式である。“完”は「尽きる」「おしまいになる」という意味を持つ：

(15) 信纸完了，得再买一点。「便せんが無くなったのでもう少し買わなければならない」5)

(16) 鱼离开水，生命就完了。「魚は水を離れたら、命がなくなる」

“V+完”は(15)(16)のような「尽きる」「おしまいになる」という意味を前項動詞に付加した形式で，“吃完”「食べ終わる/食べ尽くす」，“洗完”「洗い終える」という意味を表す

(11)(12)は“V+見”の形式である。“見”は「見える」「目に入る」という意味を持つ：

(17) 铅笔不见了。「鉛筆が見当たらない」6)

(18) 他为什么一见了李寻欢就逃？「彼はなぜ李尋歡を見かけるとすぐに逃げるの?」

“V+見”は(17)(18)のような「見える」「目に入る」という意味から拡張し、(11)では“看见”「見える」「見かける」という意味を表すこともできる。また、“見”は視覚以外の聴覚、味覚などの知覚動詞の結果補語にも用いられる：

(19) 你没有闻见？「においを感じなかった?」7)

(20) 我梦见了一个灰衣女人。「暗い感じの女性を夢に見た」

知覚動詞も終了点を持たないために，“看见”“听见”と表現することで、認識すること(到達点)を表すことになる。

以上をまとめると、中国語の活動動詞は終了点を持たないために，“到”や“完”を後項動詞として付加することで、前項動詞の動作の達成・完了を表し、知覚動詞に後項動詞として“見”を付加することで、視覚などを認識することを表すのである。

## 2.2. 使役義と非使役義の両方に解釈できるタイプ

VR他動文のRがVの達成完了を表すほかに、あるRは主語の状態変化を、あるRは目的語の状態変化を、あるRはその両方の状態変化を表していると解釈できるタイプがある。沈家煊(2004)ではこれらのことを以下のように指摘している。：8)

(21) 张三追累了李四了。

この用例は次の三つに解釈できる：

- (a) 「張三が李四を追いかけて、李四が疲れた」(使役義)
- (b) 「張三が李四を追いかけて、張三が疲れた」(非使役義)
- (c)\* 「李四が張三を追いかけて、張三が疲れた」(解釈不可能)
- (d) 「李四が張三を追いかけて、李四が疲れた」(使役義)

(a)の解釈では、前項動詞“追”の動作主主語である“张三”が(21)の動作主主語に、目的語の“李四”が“累”という状態に変化する受動者に解釈されるために、(21)は使役義を持つと解釈される。一方、(b)の解釈では前項動詞の“追”の目的語である“李四”ではなく、動作主主語である“张三”が、“累”という状態に変化する受動者に解釈されるために、(21)は非使役義に解釈される。(d)の解釈では、(a)と異なり、“李四”が“张三”を追いかけ、“李四”が疲れるという意味に解釈され、“张三”は“李四”を疲れさせる使役主(causer)になっているという使役義に解釈される。このことは VR 他動文自体が使役義を表すという主張からは説明できない。では、なぜこのような(a)(b)(d)の三つの解釈が可能なのだろうか。それは、おそらく我々が知識や経験として人が人を追いかける時、追いかける人も、追いかける人も疲れる可能性があるということを知っているために、(a)(b)(d)の解釈が考えられるのである。具体的に(a)(b)

(d)のどれに解釈されるのかはコンテキストなどによると考えられる。

また、沈家煊(2004)では、(21)のような三種類の解釈が可能なものほかに、一つの解釈のみ可能な例を挙げている：9)

(22) 张三打累了李四了。

- a. 「張三が李四を殴って、張三が疲れた」(非使役義)
- b.\* 「張三が李四を殴って、李四が疲れた」(解釈不可能)

(23) 张三打哭了李四了。

- a.\* 「張三が李四を殴って、張三が泣いた」(解釈不可能)
- b. 「張三が李四を殴って、李四が泣いた」(使役義)

(22)においては、我々の知識や経験上において、「殴る人」の方が「殴られる人」より疲れると通常は考えられるので、(a)の解釈のみである。(23)においては、同じく我々の知識や経験において、「殴る人」より「殴られる人」の方が通常は「泣く」と考えられるのである。

### 3. おわりに

前節では VR 他動詞文が使役義を備えていない例を考察した。そのことから以下のことが明らかになった：

- (i) 後項動詞が“到”“完”“見”などの前項動詞の達成や完了などを表す場合、VR 他動詞文は使役義を備えていない：。(7)–(12)

(ii) VR 他動詞文であっても、我々の知識や経験から、使役義を備えているものと非使役義を備えているものの二種類、またはそのどちらにも解釈できる文がある:(21)–(23)では、そもそも VR 自体は何を表しているのだろうか。

(24) 她微微叹气说：“累了，累了，孩子们都跑累了！”「彼女はかすかにため息をついて言った：『疲れた，疲れた，子供たちは皆走り疲れた』

(25) 马恩华又病倒了。「馬恩華がまた病気で倒れた」

(26) 旧病犯了，就服药抵挡一阵；眼睛看累了，就摘下老花镜稍事放松又重新开始工作。10)

(24)–(26)は VR 自動詞文の用例である。(24)は前項動詞“跑”は非能格動詞，(25)の前項動詞“病”は非対格動詞，(26)の前項動詞“看”は他動詞であり，後項動詞“累”“倒”は生理的，心理的な状態を表す非対格動詞である。(24)の“跑”や(26)の“看”は単独で動作主を取るにも関わらず，“跑累”や“看累”等は何れも主語の状態変化を表していると考えることができる。11)

井上(2004)によれば，“VR”はVとRを時間発生順序に並べることにより，時間推移に解釈されて，「変化」を叙述しているという。12)

VR 他動詞文においても，VR 自体は「変化」を叙述すると考えることができる。そして，(i)や(ii)で指摘したようなことを考慮すれば，VR 他動詞文が使役義をもつのか否かは前項動詞，後項動詞の種類だけでなく，我々の知識や経験において，主語や目的語がどのような性質のものであるかを考慮しなければならないのである。

#### <注>

- 1) (1)，(2)は石村広(2008)，(3)は秋山(1998)からの用例である。
- 2) 新谷秀明他編(2008)『おしゃべりな中国語』中国書店からの用例である。
- 3) (7)(9)(11)は荀春生・新谷秀明(1998)『中国語の広場』中国書店，(8)(10)(12)は北京大学中国語言学研究中心語料庫(CCL)からの用例である。
- 4) (13)(14)は依藤醇他編(2003)『中日辞典第2版』小学館からの用例である。
- 5) (15)(16)は依藤醇他編(2003)『中日辞典第2版』小学館からの用例である。
- 6) (17)は依藤醇他編(2003)『中日辞典第2版』小学館，(18)は北京大学中国語言学研究中心語料庫(CCL)からの用例である。
- 7) (19)(20)は北京大学中国語言学研究中心語料庫(CCL)からの用例である。
- 8) 沈家煊(2004: 3)より引用。
- 9) 沈家煊(2004: 10)を参照。
- 10) (24)(25)(26)は北京大学中国語言学研究中心語料庫(CCL)からの用例である。
- 11) 張楚榮(2004)が既に同様のことを指摘している。
- 12) 鈴木(2004)では，同様のことを局面推移として指摘している。

#### 参考文献

- 秋山淳(1998)「語彙概念構造と動補複合動詞」『中国語学』245 : 32-41, 日本中国語学会
- 秋山淳(2010)「動詞＋結果補語の使役義獲得について」『九州中国学会報』48:122-135
- 石村広(2000)「中国語結果構文の意味構造とヴォイス」『中国語学』247号 : 142-157, 日本中国語学会
- 石村広(2008)『中国語の結果構文に関する研究—VR 構文の意味構造とヴォイス—』東北大学大学院文学研究科言語科学専攻(博士論文)
- 井上優(2004)「日本語と中国語の変化の表現」『次世代の言語研究Ⅲ』筑波大学現代言語研究会
- 木村英樹(2012)『中国語文法の意味とかたち—「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究—』白帝社
- 鈴木武生(2004)「中国語の結果構文の派生とアスペクト特性」『日本言語学会第129回予稿集』309-314
- 張楚榮(2004)The notion of telicity and Chinese Verb Compounds.KLS24 : 143—152.
- 刘月华・潘文娛・故华 2010『实用现代汉语语法』商务印书馆
- 沈家煊 2004「动结式追累的语法和语义」『语言科学』vol.6 : 3-15.